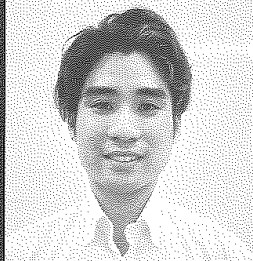


# 英語専門塾セプトに学べ!

## SEMINAR セミナーレポート REPORT



英語専門塾セプト(群馬県高崎市)  
塾長 奥野 信太郎さん

プロフィール  
32歳。群馬県出身。愛知県立大学卒。南アフリカ、カナダに留学経験あり。英検1級。福井県・群馬県の高校で7年間英語の教師を務める。30歳の時にスカウトされ、現在は英語専門塾セプト(旧えいもん)の塾長に就任。中学校英語の総復習ドリル「ベラスタ」(学研プラス)などの著作もある。

### 群馬から、日本の英語教育が変わる! ネイティブと日本人のハイブリッド授業

英検1級、TOEIC990点満点など高い英語力と指導スキルを兼ね備えた講師陣が結集している、英語専門塾「セプト」。ネイティブスピーカーも3名在籍し、英語でのディスカッションにも力を入れている新進気鋭の塾だ。高校・大学入試を突破する英語力だけでなく、英語を通して世界へと視野を広げさせることも目指しており、群馬発・世界基準の英語教育に今、注目が集まっている。

虎の巻「セプト単語」でよく出る、単語を狙い撃ち  
英語専門塾「セプト」の前身である「えいもん」は2014年12月、群馬県高崎市に開設した。創設したのは武藤 也氏。群馬県出身で、群馬大学社会学部卒。英検1級、TOEIC 990点満点、TOEIC Speaking & Writing 各200点満点の実力を持つ英語講師だ。地元で高校英語を指導できる塾が少なくことから、自ら塾を立ち上げた。現在はセプトの運営は奥野氏に任せ、アドバイザーという立場で携わる傍ら、東進ハイスクールや東進衛星予備校などでも指導している。

セプトの生徒数は約70名。高校生が50名、中学生が20名在籍している。講師は塾長の奥野氏を含めて7名。そのうち3名の先生が外国人講師だ。外国人講師を含む、すべては高校生の目標を「英検準1級」としており、外国人講師にも英検の仕組みを体験した上で指導に当たってもらう。

高校部のクラスは習熟度別に分かれており、細かい指導ができる。1クラス10名までで、机をコの字型の配置にし、生徒入ひとりに目が行き届くようにしている。横並びではなくコの字型にしたのは、生徒と講師の距離が近く、生徒の発言も引き出しやすいからである。



1クラス10人。机をコの字型にして授業を行っており、テキストはプロジェクターでホワイトボードに投影

高校生の授業数は週2回。1コマの長さは90分で、1回は文法、もう1回は長文読解に当てている。一般的な英語学習は単語を覚えてから文法、そして長文という流れがあるが、「それでは入力が遅すぎるので、単語と文法を勉強しながら、長文読解も併行して進めています。その方が文法と長文の両輪を回しながら効率的に英語を習得することができると奥野氏は話す。

単語学習には「セプト単語」というオリジナル単語帳を活用。これは「秘伝のタレ」というべき虎の巻で、一般的な単語も載っているが、とにかく入試に頻出の単語を厳選している。毎年受験生からは「入試でセプト単語がバンバン出てきた」と評判の教材だ。

先順位がわからなくなっていたり、学校の課題に追われていたり、何かしら理由があります。小テストの結果を毎日送る接点があることで、生徒の変化にも早く気づき、対処することができると奥野氏は話している。

### テキストはすべて塾オリジナル

同塾の高校部のテキストは、全国の大学入試問題データベースから、「文章の論理展開がしっかりしている」「入試によく取り上げられるテーマ」「内容が面白い」などのポイントを勘案しながらセレクトし、毎年つくり直している。各学年のテキストは1学期分で100ページを超えることもあるという。

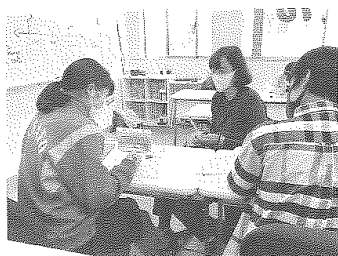
自分たちでテキストをつくる理由は、授業で最大限に生徒を伸ばすため。それに模試と実際の一般入試では問題の傾向がかなり違うことも理由の一つだ。

「入試問題を使った方がより実践的になります。模試の結果から「GMARCHは受からない」と学校では言われた生徒が、塾では同レベルの入試問題をスラスラ解いていることもあり、実際に合格もしています。」

「と奥野氏。中学部のテキストも手づくりだ。奥野氏は「授業では、今日のポイントがわかるように情報を整理することとを心がけています。また、実際の高校入試の問題も現時点で解けるものは、学年にかかわらず大量に解かせています」と話す。

「塾長の奥野先生と講師の角脇大先生は、生徒との距離感の詰め方や生徒の心を掴むのがうまいです。成績をすぐ伸ばしてくれています」と武藤氏。同塾では入塾時の生徒の学力だけでなく、その生徒の性格や個性を見極めながら指導していくことで成績が伸びると確信している。

塾では、音読量を管理する日本初の英語学習アプリ「音読メーター」も開発。音読した量を語数で示してくれ、発音の正確さもわかる。学校の教科書などの英文を取り込んで音読することも可能。ランキングシ



ネイティブスピーカーとの授業を通してリスニング力も飛躍的にアップ。英語でアウトプットする力を養っている

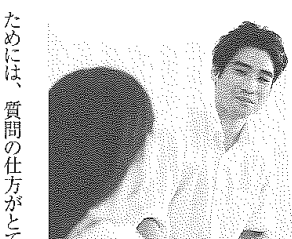
システムもあり、生徒はゲーム感覚で取り組みながら英語力を高めることができる。定期テスト対策に最適であり、他県の高校や他塾でも音読メーターを導入するところが増えている。

### 外国人講師と英語でディスカッション

ネイティブ日本人のハイブリッド授業を展開していることも大きな特徴だ。このことで、生徒のリスニング力は飛躍的に向上。令和3年度の大学入学共通テストの英語のリスニングテストの平均点は約56点だったが、同塾の平均点は約80点と飛び抜けている。外国人講師とディスカッションすることも多く、「通貨の未来」についてディスカッションした時は、電子マネーにすぎないという意見もあれば、貝を使うシステムに戻すべきといった意見も出て、とても盛り上がりました」と奥野氏。

外国人講師と武藤氏は、国際的な英語教授資格CELTA(セルタ)を取得。特に武藤氏は世界の上位5%(Top5%)で合格しており、世界基準の英語教授のノウハウを、塾に投入している。

「生徒が英語で積極的に発言する



生徒から慕われている奥野氏。プライベートな話を生徒とすることもあるが、「友達のようになりすぎず、絶妙な距離感で接することができるセンスを持っています」と武藤氏

ためには、質問の仕方がとても重要になります。私がCELTAを取得する過程で、一択の質問を投げかけるというテクニックを学びました。どちらか方を選んで答えられるので、生徒の心理的なハードルは低くなります。外国人講師は生徒への質問の仕方がとてもうまく、レベルの高い生徒には考えさせる質問もするなど、テクニックを使い分けています」と武藤氏は語る。

また、7月からは地元のラジオ局で「セプトラジオ」という番組を担当する。時事英語や洋楽の歌詞を解説しながら高嶋の方々に世代を問わず英語を楽しんでもほしいと思っている。セプトでは他塾に対する授業力アップのコンサルティング業務も行っており、日本の英語教育全体の発展に貢献したいと考えている。

●指導のポイント  
生徒が英語で発言しやすいよう、CELTAの資格を持つ講師が的確に指導